

大森 海苔のふるさと館

OPEN 4月6日(日)



平成20年4月6日(日)

オープニングセレモニー(10:00~)

- 催し ●都立美原高校 和太鼓演奏(雨天中止)
●大森甚句研究保存会(雨天中止)
●のり祭り

ジャンボのりまき 海苔つけ体験
産地あてクイズ 焼き海苔実演
(~16:00)

- 「大森ふるさとの浜辺公園」でも楽しいイベント開催。

利用案内

開館時間 午前9時~午後5時(6月~8月は午後7時まで)
休館日 第3月曜日 年末年始(12月29日~1月3日)



大森 海苔のふるさと館

東京都大田区平和の森公園2番2号
TEL(03)5471-0333(オープン以後)

問い合わせ先 大田区立郷土博物館 TEL(03)3777-1070



交通案内(大森ふるさとの浜辺公園・入口まで)

京急平和島駅から徒歩15分・京急大森町駅から徒歩12分
JR大森駅から平和島循環バスで平和島五丁目下車徒歩3分
JR大森駅からJR蒲田駅から大森東五丁目行き終点下車徒歩4分
なるべく公共交通機関をご利用ください。

大森 海苔のふるさと館

海苔の歴史を伝えます。

大田区沿岸の海苔作りの始まりは、今から300年ほど前、江戸時代の享保(1716~36)の頃にさかのぼります。品川から大森周辺の海辺に“ひび”と呼ばれる粗朶木が建てられ、枝について育つ海苔を摘み取りました。特に浅瀬の広がる大森周辺は大きな産地として発展し、江戸時代の終わりごろから各地へと海苔作りの技術が伝わり始めました。そして明治以降、多くの産地が全国各地に生まれますが、大森周辺で産出される海苔は質量ともに全国一の座を保ち、“本場乾海苔”と称賛されてきました。

残念ながら沿岸の埋立て計画に応じて、昭和37年(1962)12月、生産中止を決定し、翌38年春にその歴史を閉じました。しかし、江戸時代から培われてきた海苔作りの伝統は、生産は途絶えても海苔の流通業の中に生きています。大森周辺に“乾海苔問屋”が数多く見受けられるのは、乾海苔生産地の本場であった歴史を背景としており、大森は現在も海苔流通網の重要な拠点の一つとなっています。

大田区の家業の歴史は、人形と映像モニターを組み合わせた「大田海苔劇場」でご紹介しています。ぜひご覧ください。

文化財の海苔生産用具を伝えます。

全国に広まった海苔作りは、この地域で形作られた生産の方法が元になっています。その文化的価値から、881点の海苔作りの道具類が「大森および周辺地域の海苔生産用具」として国の重要有形民俗文化財に指定されています。道具の数々を展示で紹介すると同時に、後世へ伝えるために保存します。

体感・体験で伝えます

昭和30年代に造船されて現存する最後の海苔船(全長13m)や、「海苔付け場(海苔抄き作業部屋)」の復元展示で、海苔作りの盛んだった時代の様子を伝えます。

また、「海苔付け」や「海苔糞作り」など、乾し海苔作りの体験学習や、「大森ふるさとの浜辺公園」の「生き物観察会」なども開催します。

企画展示で伝えます

今年の冬は、大田区の家業で海苔作りが44年ぶりに復活しました。育てた海苔はアサクサノリです。今日ではアサクサノリは環境省や水産庁によって編集された「レッドデータブック」に掲載され、絶滅が危ぶまれる生き物となっています。東京湾でも絶滅したと思われてきましたが、平成16年(2004)に多摩川河口で生存が確認されました。そのアサクサノリの生育を試み、小学校の地域学習や環境学習に役立てようという活動が「大森ふるさとの浜辺公園」で行なわれました。その活動の様子を紹介します。



大日本物産図会 武蔵国浅草海苔製図 明治10年

